

## 「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2010年夏)の結果

当センターでは、2010年夏のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

### 概要

**ボーナス予想額 : 52万8千円(昨夏比、2万9千円減少(5.2%減))**

今夏のボーナス予想額は52万8千円となり、昨夏の受取額(回答者の実績)を2万9千円下回った。したがって、リーマンショック後の2008年冬から今夏まで、夏冬を通じて4季連続の前年実績割れを記録する結果となった。昨夏の減少率は6.0%で1986年の本調査開始以来、夏のワースト1位であったが、今夏は5.2%で減少幅は縮小したものの、低迷が続いている。景気の持ち直しや企業収益の回復が発表されているが、県内の給与所得者のボーナスは厳しさが続いていることがうかがえる。日本経済の持続的成長のためには、内需の活性化が不可欠とされているが、その源泉の一つであるボーナスは盛り上がりには欠ける低調な予想結果となっている。

### 暮らし向きアンケート調査 「生活全般」について質問した結果

半年前とくらべて

いくぶん良化の兆しは見られるが、「変わらない」が7割以上を占め、停滞感が根強い。

今後半年間の予想は

現状より悪くなるとの悲観的な回答が多い。

直近半年間の暮らし向きについては、「生活全般」において前年夏の調査に比べ、「良くなった」6.2%(前年夏3.1%)であり、3.1ポイント良化し、「悪くなった」も21.0%(前年夏26.2%)であり、5.2ポイント良化し、改善の兆しは見える。しかし、「変わらない」が72.9%(前年夏70.7%)と回答する中、暮らし向きに対する停滞感は依然として根強い。

また、先行き(今後半年間)の見通しにおいても、「良くなりそう」6.0%(現状6.2%)、「悪くなりそう」29.3%(現状21.0%)と現状より悪化を予想しており、先々に対し厳しい回答を寄せている。

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は8.7%(昨夏5.3%)と3.4ポイント増加し、「減りそう」は36.7%(昨夏)39.5%)と2.8ポイント減少し、ともに前年に比べ、緩やかな改善となっている。しかし、「減りそう」が「増えそう」を28ポイントも上回っており、厳しい状況は続いている。

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位は「生活費の補填」で、順位は昨夏と同じである。「貯蓄」は例年と同じく、38.3%と高い配分割合を示している。

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.2%、「ゆうちょ貯金」9.3%、「社内預金」7.0%、「株式・投信」4.3%の順となっている。順位も昨夏と同じで、銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「旅行・レジャー」が上位を占めた。以下「住宅関連資金」、「不時の備え」、「車の維持管理」、「耐久消費財」の順となっている。

購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「テレビ」、3位「紳士服」が上位を占めた。既婚・独身を問

わず女性は「婦人服」を1位としている。既婚男性は「テレビ」、独身男性は「紳士服」をそれぞれ1位にあげている。

## 調査結果

### 1 ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は8.7%（昨夏5.3%）と3.4ポイント増加し、「減りそう」は36.7%（昨夏39.5%）と2.8ポイント減少し、ともに前年に比べ、緩やかな改善となっている。しかし、「減りそう」が「増えそう」を2.8ポイントも上回っており、厳しい状況は続いている。

この夏のボーナスは、昨夏に比べて、「増えそう」は8.7%、「減りそう」は36.7%、「変わらない」が54.6%となった。「増えそう」（昨夏5.3%）は3.4ポイント増加し、「減りそう」（昨夏39.5%）も、2.8ポイント減少し、共にやや良化した。

03年冬以降、リーマンショック前の08年夏までは「増えそう」、「減りそう」は共にバブル崩壊後の低迷を乗り越え徐々に改善し、緩やかではあるが良化を続けてきた。しかし、リーマンショック後の08年冬以降悪化に転じ、今夏に至っている。今夏の増減予想は調査開始以来の最悪を記録した昨夏との比較では改善している。

しかし、「増えそう」と「減りそう」の差は「減りそう」が依然として28.0ポイント上回っており更なる改善が望まれる。（図表 - 1、2）。

年齢別にみると、「増えそう」は全年齢階層において昨夏比増の良化の予想となった。「減りそう」も50歳以上を除く全ての年齢階層において昨夏比減で、良化を予想している。特に、若年齢層の30歳未満は25.0%で、前年比16.9ポイント増と大幅な改善を予想している。また、今夏の年齢階層別比較の特徴として、「増えそう」は若年齢層ほど高く、高年齢層ほど低い。「減りそう」は若年齢層ほど低く、高年齢層ほど高い傾向が見てとれる。

なお、ボーナス予定日は、6月中が全体の61.2%（うち、上旬22.7%、中旬16.5%、下旬22.0%）で、7月中が27.9%である。

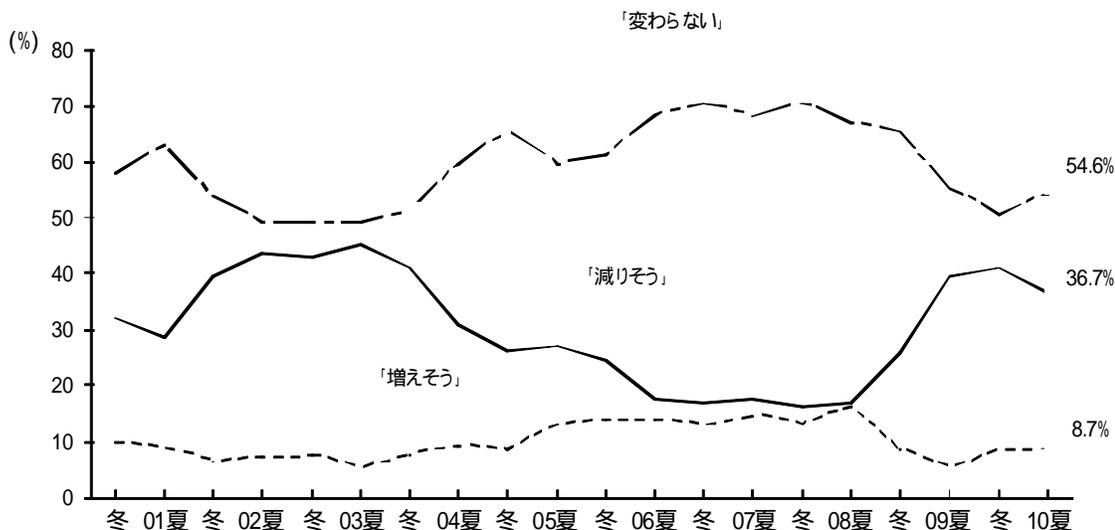
図表 - 1 ボーナスの増減予想(対前年比)

(構成比、単位:%)

		「増えそう」	「減りそう」	「変わらない」
平均	08夏	16.2	16.9	66.9
	09夏	5.3	39.5	55.3
	10夏	8.7	36.7	54.6
30歳未満	08夏	25.3	10.8	63.9
	09夏	8.1	27.9	64.0
	10夏	25.0	21.9	53.1
30歳代	08夏	14.6	18.5	66.9
	09夏	9.4	40.0	50.6
	10夏	11.5	33.8	54.7
40歳代	08夏	15.3	12.6	72.1
	09夏	3.1	42.0	54.9
	10夏	3.4	39.2	57.4
50歳以上	08夏	13.4	25.2	61.4
	09夏	1.4	42.4	56.1
	10夏	1.5	46.7	51.8

注) 不明、無回答を除いた構成比

図表 - 2 ボーナス増減予想割合の推移



## 2 ボーナスの予想額

今夏のボーナス予想額は52万8千円となり、前年の受取額(回答者の実績)を2万9千円下回った。したがって、リーマンショック後の2008年冬から今夏まで、夏冬を通じて4季連続の前年実績割れを記録する結果となった。

ボーナスの予想額(回答者の平均、税引き後の受取額)は52万8千円で、前年比5.2%減(回答者の前年実績比)となった。前年の受取額を2万9千円下回る回答である。今夏は国内景気が回復基調にあるとされているが、本調査によると今夏も前年実績を割れる結果となった。リーマンショック後の2008年冬から今夏まで、夏冬を通じて4季連続の前年実績割れである。

昨夏の減少率は6.0%で本調査開始以来、夏のワースト1位であった。今夏は5.2%で減少幅は縮小したものの、最悪の状況を免れたに過ぎず、引き続き低迷している。

今夏のボーナスアンケートは企業業績の持ち直しが伝えられる中、昨夏比において増加が期待されたが、県内の給与所得者のボーナスは、厳しい予想結果で集約された(図表3、4)。

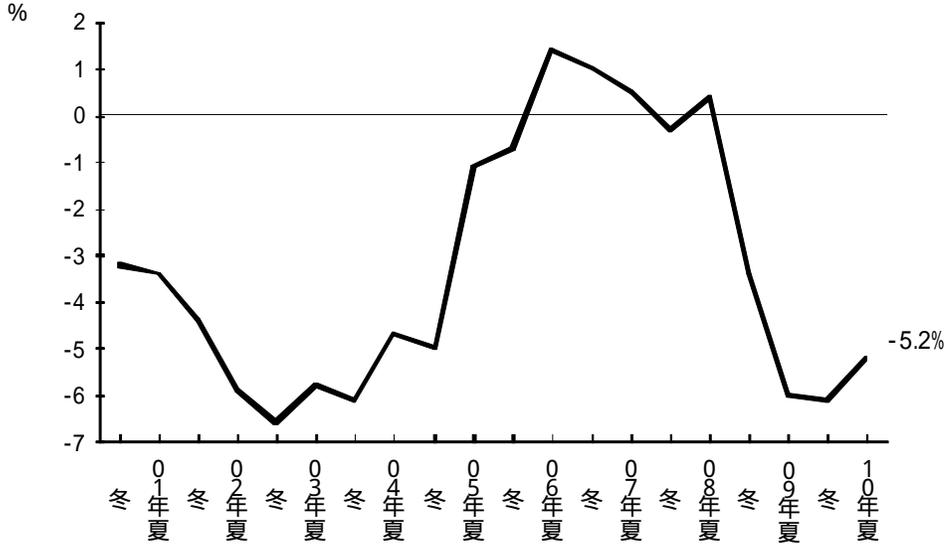
図表 - 3 ボーナス予想額・予想伸び率

		予想額 (万円)	予想伸び率 (対前年夏、%)
平均		52.8	5.2
30歳未満		36.7	0.8
30歳代		46.6	0.9
40歳代		59.1	5.6
50歳以上		62.7	10.6
勤務 地別	県内	50.3	4.9
	東京	69.6	7.0

本調査は年齢階層別にも集計しているが、今夏は30歳代が昨夏比において増加で良好であった。他の階層は昨夏の実績を下回り、特に50歳以上が10.6%減と著しく減少している。

また、県内・都内の勤務地別に見ても、共に前年実績を下回り、厳しさを共有している。

図表 - 4 ボーナス予想伸び率の推移



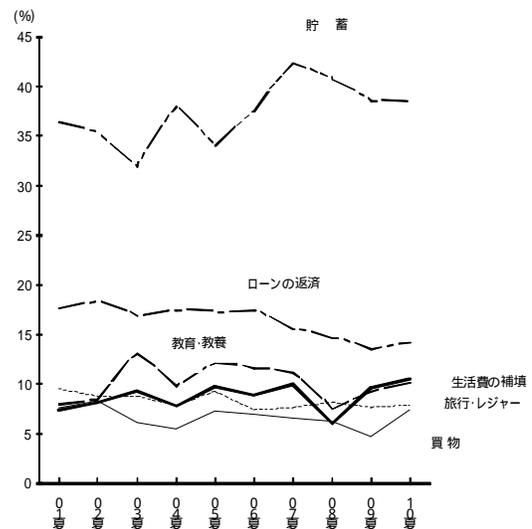
### 3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「ローン等の返済」、3位は「生活費の補填」で、順位は昨夏と同じである。「貯蓄」は例年と同じく、38.3%と高い配分割合を示している。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(38.3%)、2位「ローン等の返済」(14.2%)、3位「生活費の補填」(10.5%)で、以下「教育・教養」、「旅行・レジャー」、「買物」の順となっている。配分順位は昨夏と同じである。ボーナスの配分の中で、「貯蓄」は景気の上下にあまり関係なく常にトップの位置を占めている(図表 - 5、6)。

既婚・独身、男・女別で見ると、既婚・独身を問わず、まず「貯蓄」に回すと答えている。なかでも独身者は男性、女性ともに貯蓄志向が高く男性は59.1%、女性は45.9%を貯蓄に回すと回答している。最近の若者の意外な堅実性が見て取れる。「貯蓄」以外の

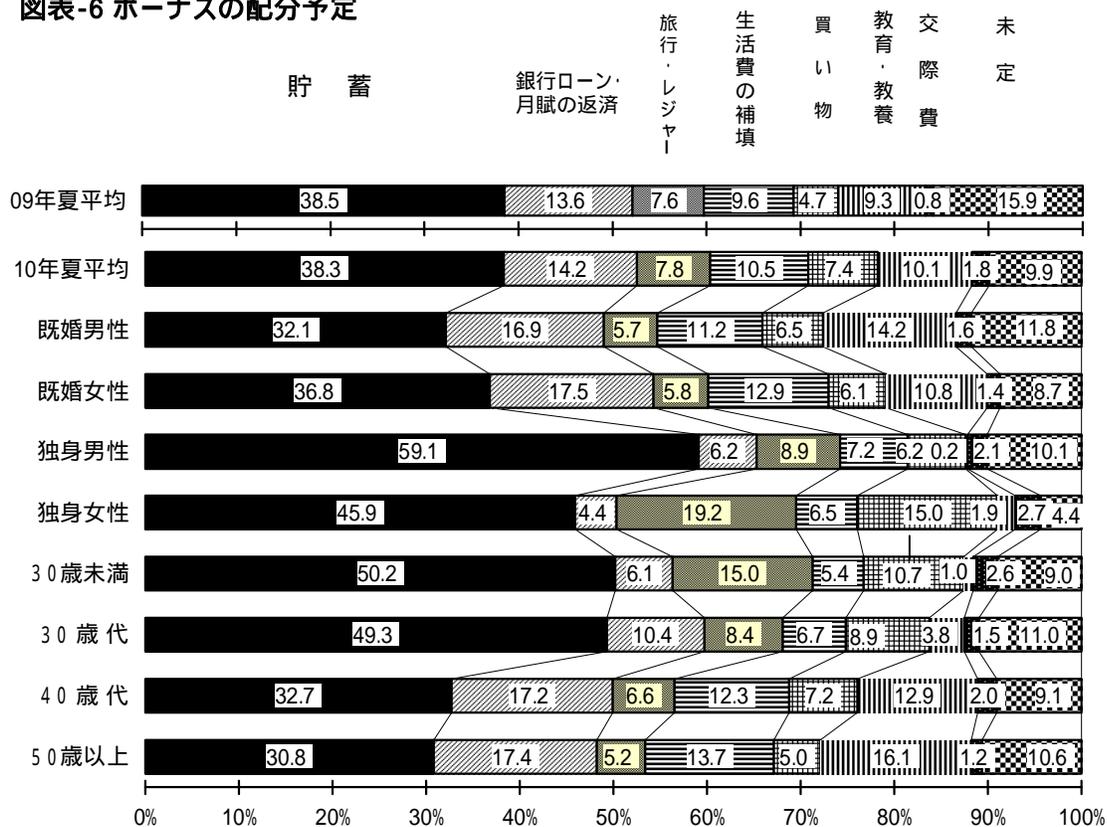
図表 - 5 ボーナスの配分予定の推移



項目では、独身者は既婚者に比べて「旅行・レジャー」や、「買い物」のウェイトが高く、既婚者は独身者に比べて「ローン等の返済」、「教育・教養」に高い割合を占め、独身・既婚それぞれの特徴を表わしている。

年齢別でも、全ての年齢層において、「貯蓄」が一番の配分となっている。特に、「30歳未満」は50.2%を貯蓄に回すと回答し、貯蓄意欲が高い。「貯蓄」以外の年齢階層による特徴としては、30歳未満の年齢層が「旅行・レジャー」、「買い物」に、40歳代は「生活費の補填」、「ローン等の返済」に、50歳以上は「ローンの返済」、「生活費の補填」、「教育・教養」において、他の年齢層に比べそれぞれ配分割合が高くなっている。

図表-6 ボーナスの配分予定



## 4 貯蓄の内訳

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.2%、「ゆうちょ貯金」9.3%、「社内預金」7.0%、「株式・投信」4.3%の順となっている。順位も昨夏と同じで、銀行預金の堅調さが今夏も目立っている。

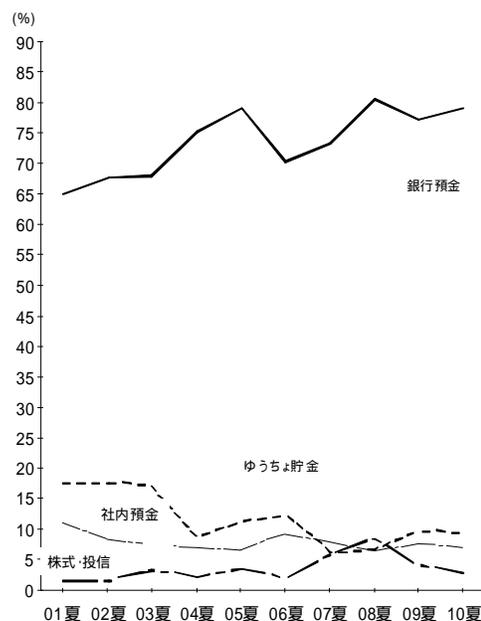
貯蓄の内訳は、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」79.2%、「ゆうちょ貯金」9.3%、「社内預金」7.0%、「株式・投信」4.3%の順となっている。この順位は昨夏と同じである。(図表-7、8)。

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別で見ると、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。その中でも既婚女性は94.0%で高い割合を示している。「銀行預金」以外では、「ゆうちょ貯金」は独身男性(18.3%)、「社内預金」は独身女性(10.8%)、「株式・投信」も独身女性(8.9%)とそれぞれ高い関心を示している。

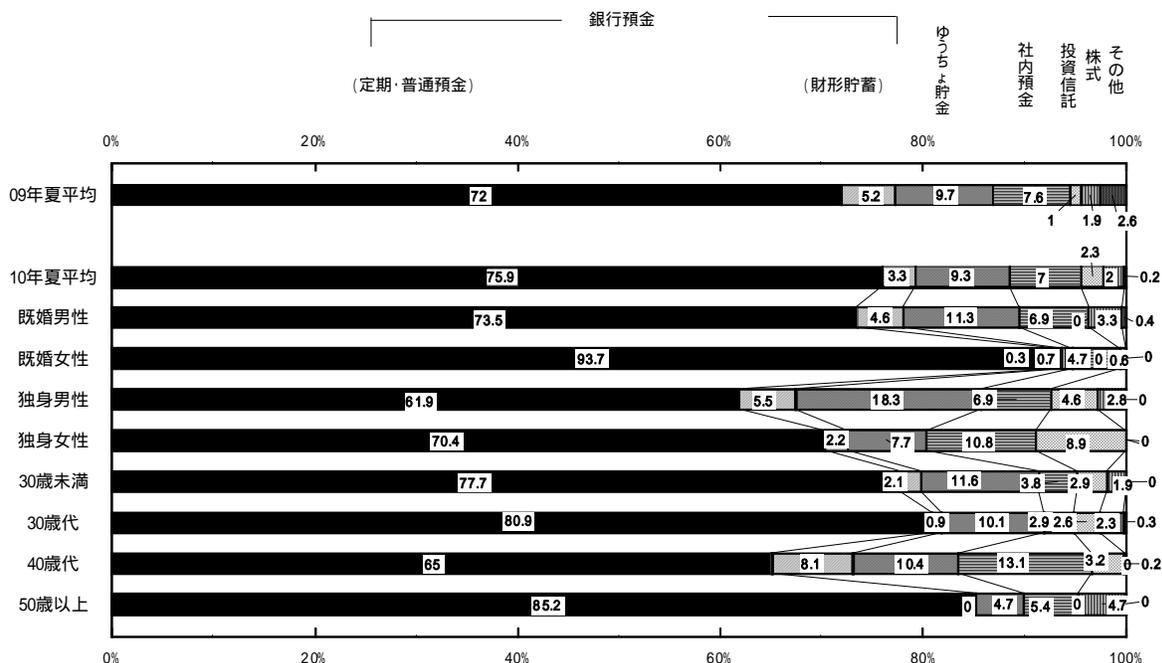
年齢別でも、各年齢層で「銀行預金」の割合がトップであり、貯蓄全体の中で占める割合が高い。特に50歳以上は85.2%と他の年齢層より高い割合となっている。

また、「銀行預金」以外では、30歳未満が「ゆうちょ貯金」(11.6%)、40歳代が「社内預金」(13.1%)にそれぞれ他の年齢層より高い支持を得ている。

図表-7 貯蓄の内訳推移



図表-8 貯蓄の内訳



## 5 貯蓄の目的

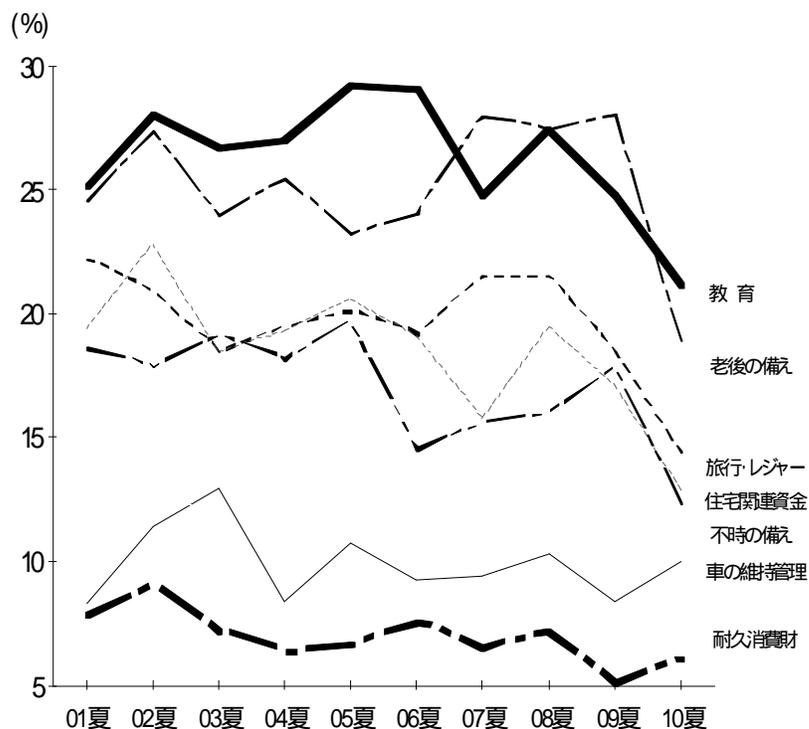
貯蓄の目的は、1位「教育資金」、2位「老後の備え」、3位「旅行・レジャー」が上位を占めた。以下「住宅関連資金」、「不時の備え」、「車の維持管理」、「耐久消費財」の順となっている

貯蓄の目的(複数回答)は、「教育資金」21.2%が昨夏1位であった「老後の備え」18.9%を上回り1位となった。つづいて3位「旅行・レジャー資金」14.4%の順となった(図表-9)。

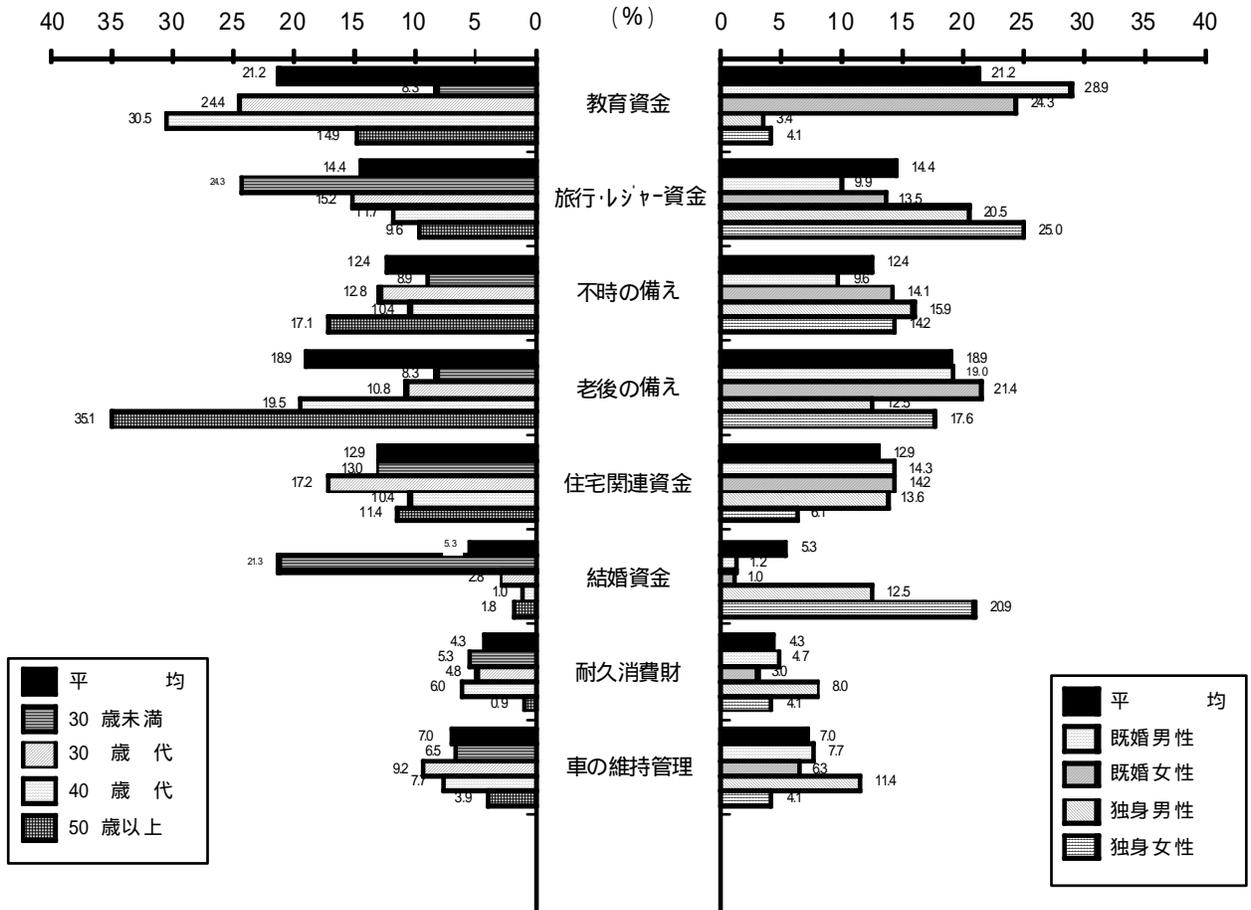
年齢別にみると、30歳未満は「旅行・レジャー」(24.3%)、「結婚資金」(21.3%)、30歳代は「住宅関連資金」(17.2%)、「車の維持管理」(9.2%)、40歳代は「教育資金」(30.5%)、耐久消費財(6.0%)、50歳以上は「老後の備え」(35.1%)、「不時の備え」(17.1%)が、他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの相違が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚者は「教育資金」(男性の28.9%、女性の24.3%)、「老後の備え」(男性の19.0%、女性の21.4%)を、独身者は、「結婚資金」(男性の12.5%、女性の20.9%)、「旅行・レジャー」(男性の20.5%、女性の25.0%)を貯蓄目的にあげている(図表-10)。

図表-9 貯蓄の目的の推移



図表 - 10 貯蓄の目的(複数回答)



注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

## 6 購入希望品目

購入希望品目では、1位「婦人服」、2位「テレビ」、3位「紳士服」が上位を占めた。既婚・独身を問わず女性は「婦人服」を1位としている。既婚男性は「テレビ」、独身男性は「紳士服」をそれぞれ1位にあげている。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)は、「婦人服」(11.9%)、「テレビ」(10.1%)、「紳士服」(7.6%)の順となった(図表 - 11)。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「テレビ」、独身男性は「紳士服」を1位にあげている。女性は既婚・独身を問わず、「婦人服」を1位にあげている。

特に買いたい希望品目としては「テレビ」が好調で、全体で2位となっている。来年7月に迫ったアナログ放送終了に伴う、地上波対応テレビへの買い替え需要と思われる。また、エコカー減税による「乗用車」人気は「既婚男性」において高く、既婚男性の買いたいもの5位(昨夏15位)となっている。

図表 - 11 購入希望主要品目

(複数回答、単位：%)

全 体	08夏			09夏			今夏		
	08夏	09夏	今夏	08夏	09夏	今夏	08夏	09夏	今夏
婦人服	13.7	10.2	11.9	13.7	10.2	11.9	13.7	10.2	11.9
テレビ	7.9	12.6	10.1	7.9	12.6	10.1	7.9	12.6	10.1
紳士服	7.6	8.2	7.6	7.6	8.2	7.6	7.6	8.2	7.6
家具・インテリア	7.1	6.2	6.9	7.1	6.2	6.9	7.1	6.2	6.9
靴	4.8	3.6	6.2	4.8	3.6	6.2	4.8	3.6	6.2
靴・ハンドバッグ	5.7	3.6	6.2	5.7	3.6	6.2	5.7	3.6	6.2
子供服	5.8	5.3	5.3	5.8	5.3	5.3	5.8	5.3	5.3
パソコン	6.5	6.5	4.8	6.5	6.5	4.8	6.5	6.5	4.8
化粧品	3.3	2.1	4.3	3.3	2.1	4.3	3.3	2.1	4.3
デジタルカメラ・ビデオ	3.0	2.9	3.6	3.0	2.9	3.6	3.0	2.9	3.6
乗用車	4.1	3.2	3.3	4.1	3.2	3.3	4.1	3.2	3.3

既婚男性		既婚女性	
テレビ	12.9	婦人服	14.2
紳士服	10.4	テレビ	12.5
家具・インテリア	9.1	子供服	9.6
子供服	6.9	家具・インテリア	7.1
乗用車	4.7	靴・ハンドバッグ	6.7

独身男性		独身女性	
紳士服	21.5	婦人服	27.1
デジタルカメラ・ビデオ	8.6	靴・ハンドバッグ	13.5
テレビ	7.5	靴	12.0
パソコン	7.5	化粧品	12.0
靴	7.5	デジタルカメラ・ビデオ	5.7

## 7 暮らし向きについて

暮らし向きアンケート調査の「生活全般」については、半年前と比較して良化の兆しは見られるが、「変わらない」が7割以上を占め、依然として停滞感が根強い。今後半年間の予想も現状より悪くなるとの悲観的な回答が多い。

### (1) 収入

半年前と比べ、「増えた」が8.7%(前年6.9%)で1.8ポイント増加した。また「減った」も28.7%(前年31.6%)で、2.9ポイント減少し、共に良化している(図表 - 12)。

半年後の先行きについては、「増えそう」は6.9%(現状8.7%)と、悪化の予想である。また、「減りそう」も31.1%(現状28.7%)と先々への不安をのぞかせている。

### (2) 支出

半年前と比べ、「増やした」は19.1%(前年13.6%)と5.5ポイント増加している。また、支出を「減らした」との回答割合は23.9%(前年29.9%)で、6ポイント減少し家計支出は拡大傾向にある。

しかし、半年後の先行きについては、「増やす」は9.8%（現状19.1%）と現状より9.3ポイント減少し、「減らす」との回答が39.4%（現状23.9%）と現状より15.5ポイント増と、今後の家計消費支出に対して慎重な姿勢が見てとれる。

### (3) 生活全般

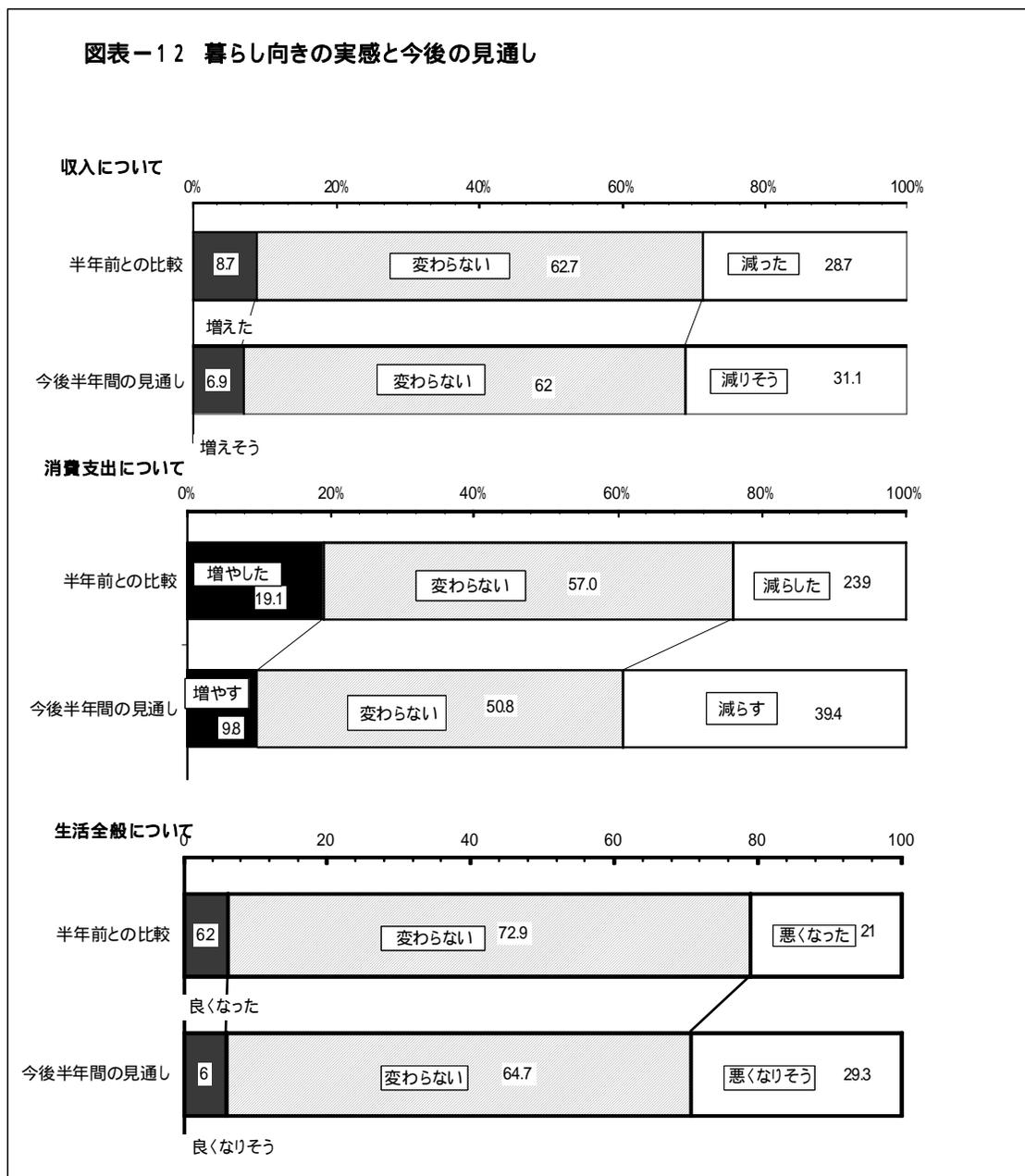
「生活全般」において、直近半年間の暮らし向きについては、「良くなった」は6.2%（前年3.1%）と増加し、「悪くなった」が21.0%（前年26.2%）と減少し、暮らし向きは総じて良化に転じている。

しかし、半年後の先行きの見通しとなると、「良くなりそう」が6.0%（現状6.2%）で0.2ポイントの減少、「悪くなりそう」が29.3%（現状21.0%）と現状より8.3ポイント増加し、悪化を予想している。

「収入」、「消費支出」、「生活全般」のどの切り口からみても、改善はしているが、先行きへの生活不安は拭われていない。

また、企業業績は回復持ち直し基調にあるとされているが、県内の給与所得者を対象とした本調査の結果では、「ボーナスの所得水準」、「暮らし向き」ともに、まだ回復にはまだ時間がかかりそうである。本格的な景気回復が待ち望まれる。

（坂口 修治）



### 回答者の構成

(人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳以上	計
既婚男性	21	72	107	104	304
既婚女性	17	55	79	67	218
独身男性	37	19	12	6	74
独身女性	58	33	16	6	113
計	133	179	214	183	709

### アンケート調査実施要領

方 法	千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施
実 施 日	2010年4月13日～15日
対 象 地 域	県内全域
対 象 人 員	1,000人
有効回答数	709人
有効回答率	70.9 %